

WHO Report

ウォーキング・ホリデー・オギクボ

2022年4月号

NO. 248

東京西ワイスメンズクラブ・東京YMCA杉並センター

『野川下り』国分寺からスタート 古代多摩川の忘れ物の清流

今回は、国分寺市恋ヶ窪を源泉として二子玉川で多摩川に注ぐ『野川』を下るシリーズの第1回目です。

多摩川の南下によって生まれた国分寺崖線（ハケ）からの湧き水を集めた全長約23kmの流域の自然、歴史、人の営みを気ままに観て歩きます。これまで個々のスポットには、季節や組み合わせ、テーマを変えて何度も訪れていますが、“通し”で歩くのは初めてです。

今回は源流のひとつ、国分寺の「姿見の池」を発し、泉水池を廻り、出番を待って次々に咲き競う花々を楽しみます。

241回WHOウォーキングのご案内

期 日：2022年4月23日(第4土曜日)

コース：JR西国分寺ー東福寺ー恋ヶ窪用水ー姿見の池ー東山道武蔵路跡ー花沢橋ーJR国分寺駅ー都立殿ヶ谷戸庭園(次郎弁天池)ー紅葉橋ー(東京経済大学)ー西之橋ー貫井神社ー貫井大橋ーバス停・貫井トンネル下ー〈バス〉ー武蔵小金井駅

集合・出発：JR西国分寺駅北口 10:00(厳守)

解 散：14:00頃

携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具
参加費：300円。入場料など100円。初参加の方は、名札代200円。(必ず着用)。

みどころ

野川の地形：古代多摩川の流れが南に移動して生まれた崖線が大規模開発を阻み、清流と動植物が残っている。大岡昇平の『武蔵野夫人』の「はけの人」、「恋ヶ窪で」の地形分析の描写には、今も違和感がない。

国分寺崖線^{かいせん}: 立川市砂川九番に発し大田区田園

調布付近まで連なる。イコール野川ではない。

大池: 野川の主要源泉。日立製作所の研究所の構内にあり豊富な水量、森が魅力。春秋に公開日が決まっていたが、今は未定。

姿見の池緑地: 野川源流の一つ。池名の由来は鎌倉時代には宿場があり、遊女たちが朝な夕なに鏡代わりに姿を写していたことから。湧水もあるが、恋ヶ窪分水の水も流入。遊女夙妻大夫が源平争乱の頃、鎌倉武士・畠山重忠との悲恋伝説が残る。

東山武蔵路跡: 律令制によって7世紀後半から8世紀前半に作られた都と地方国府を結んだ七幹線道のひとつ跡。現在調査中。

殿ヶ谷戸庭園: 武蔵野台地と国分寺崖の自然を生かした回遊式林泉庭園。三菱合資会社の社員江口定條が1913(大正2)年の別荘を構え、「随宜園」と名付けた。1929(昭和5)年に三菱の岩崎彦彌太が買い取り、主屋を改築し庭園を完成させた。1974(昭和49)年、東京都が買収した。2011(平成23)年、国の名勝に指定された。今年指定15年で特別展示が行われている。これも見どころ。

新次郎池: 東京経済大学構内にある湧水池。

貫井神社: 1590(天正18)年の創建。雨乞いをするると必ず雨が降ったと言われる。現在、池の改造で、今は池底部分の石組み中。

コロナ対策の継続

蔓延防止が解除になっても、感染が無くなったわけではありません。当分は、これまで通り用心しましょう。マスクは着用して、必要に応じては必ずしてください。

ウクライナ募金に感謝

世界のYMCA、ワイズメンズクラブはウクライナYMCAを通じて住居、食品、衣類、医薬品、衛生用品を通して提供しています。私たちが協力しようと、『WHOレポート』3月号を郵送する際にアピールさせていただきました。3月例会に青と黄色の袋を用意し、16,139円をいただきました。その後、例会後に、「思いはあっても、どこに託したら良いか判らなかつた」と、10,000円の寄付をいただきました。それぞれ東京YMCAに振り込み

ました。ご協力に感謝いたします。

感謝

3月例会で84円切手1枚、82円切手1枚をいただきました。感謝して報告いたします。

WH03月例会の報告

善福寺川の桜に歓声 再開したWHOウォーク

1年以上ぶりのWHOは、JR阿佐ヶ谷駅の集合でした。新しく完成した高層住宅街の沿道に花の名を口々に言いながら歩き、善福寺緑地に出た瞬間、皆が次々に歓声をあげました。そこは、善福寺川の天目橋と相生橋の中間の桜の最も美しい地点でした。当初は相生橋に出るつもりでしたが、出発寸前に「少し上流の方が良い」と参加者からアドバイスがあったのです。

桜の見頃とウォーキング当日が一致したのは、はじめてでした。

「最初良ければすべてよし」。再開後の初回とあって、ちょっとごちない雰囲気が一気に軽くなり、「雨が降ったら、そこでやめてもいいや」と。皆が気楽になりました。

善福寺川の河畔を「善福寺川緑地」と「和田堀公園」が切れ目なく続きます。緑地の方が植物公園の趣があり、各種樹林と子ども広場、スポーツ施設が、交互にあります。

「公園」の方は、戦前は、「大宮八幡遊園地」としてウォーターシューなどで賑わっていましたが、今はボート池や島に人手を入れないので小魚や野鳥の天国です。

団体の花見はまったくありませんでした。飛来するカワセミや、営巣するオオタカを狙うカメラマン、バードウォッチャーが目立ちました。

兩岸の高台には縄文時代からの遺跡がありますが、今回は、歩け歩けに徹して、釣り堀り近くの小公園で昼食。最後は高台に上がり、源頼義、義家ゆかりの大宮八幡宮で解散しました。参加者は32人。身体が慣れていないこともあり、休憩たっぷり、歩行ゆっくり歩でした。

来月の予定

期日: 5月20日(第4土曜日)。

コース: JR武蔵小金井駅に集合して、野川公園、武蔵野公園の緑の風に吹かれて歩きます。

おわび

事務上の不手際で、WHOレポートが一部発送できませんでした。おわびもうしあげます。ご

めんなさい。(吉田明弘)

★★「もしも「もう WHO は卒業」と思っておられても、レポートの送付は断りにくいとい方がおられたら、遠路なくお申し出ください。必要なときはご連絡ください。